

平成30年度第1回伊勢原市社会福祉審議会 会議録

〔事務局〕 保健福祉部福祉総務課

〔開催日時〕 平成30年11月27日（火曜日）午後4時00分～5時10分

〔開催場所〕 中央公民館会議室B

〔出席者〕

（委員） 東奈美委員、松岡俊委員、小島厚委員、石井良秋委員、新倉良一委員、橋本澄春委員、麻生貴之委員、大杉あや子委員、山田千尋委員、若松操委員、秋山浜子委員、宮川進委員

（欠席） 渡辺雅彦委員、石塚恒夫委員、佐々木つぐ巳委員、秋澤孝則委員、山崎一郎委員

（事務局） 保健福祉部：小林部長  
福祉総務課：三河課長、近藤主事  
障がい福祉課：鎮目課長、遠藤係長

〔公開可否〕 公開

〔傍聴者数〕 0人

《審議の経過》

1 報告事項

（1）第1期伊勢原市自殺対策計画について

2 その他

【会議概要（委員からの主な意見・質疑内容）】

1 報告事項

（1）第1期伊勢原市自殺対策計画について

（議長）

それでは、第1期伊勢原市自殺対策計画について事務局から説明をお願いいたします。

【事務局（障がい福祉課）より資料1－1第1期伊勢原市自殺対策計画〔案〕の概要及び資料1－2伊勢原市自殺対策計画〔案〕の第2章まで説明】

（議長）

それでは時間も限られていますが、御審議よろしくお願ひします。今事務局からご説明いただいたところが、国の全体的な流れを受けて伊勢原市の中で自殺に対する考え方、自殺に対する対策をどのように取り組んでいくかという基本的な枠組みになってくると思います。説明や表現について御意見をいただきたいと思ひます。

—発言なし—

（議長）

ちょっと難しいですかね。それでは今の全体的な枠組みから、伊勢原市の実態調査の結果をご説明いただき、また御意見を頂戴しようと思ひます。

（副会長）

少しよろしいでしょうか。計画の推進のところに記載されている「PDCA サイクル」という用語の説明をお願いします。

（事務局）

資料1－2の最後のページに計画の進行管理について記載しています。Plan（計画の策定・事業の企画）、Do（事業の実施・報告）、Check（事業・計画の評価）、Act（事業・目標の見直し）となります。これらの頭文字を取って「PDCA サイクル」とし、計画・実施・評価・見直しを繰り返し、計画をより良いものにしていくという形になっております。

（議長）

このような言葉が突然出てくると、少し市民に分かりにくいかなと思ひます。

（事務局）

今回お示ししたのは素案となりますが、最終的な計画書を作成する際には、巻末に用語集を加え、分かりづらい語句については説明をつける予定です。

（議長）

分かりました。それでは第3章の説明をお願いします。

【事務局（障がい福祉課）より資料1－2伊勢原市自殺対策計画〔案〕の第3章について説明】

(議長)

ありがとうございます。ここで伊勢原市の現状について読み込めると思いますので、御意見、御質問等があればよろしくお願ひします。人口規模的に詳細な分析は難しいかもしれませんが、議論の中では、伊勢原市がどのように対策をすべきという点で大事なデータになりますので、お気づきの点があれば御意見をいただければと思います。

(委員)

データの中で自殺と断定しきれないというケースは入っているのでしょうか。

(事務局)

今御説明した数字は警察統計になります。警察の方で自殺と思われる方の近親者に聞き取りをして、どういう状況で亡くなったのか等を伊勢原市の統計として出しているものです。どこで亡くなったか、どこに住んでいたかという2種類の統計がありますが、今回は居住地が伊勢原市になっている方の数字を掲載しました。

(委員)

第1章の「3 自殺を考えている人は何らかのサインを発していることが多い」という項目で、「精神科医等の専門家につなぎ、その指導を受けながら」と記載されていますが、資格職や専門職は、指導するというよりは、「共に考え、寄り添い」といった考え方なので、記載の方法について検討していただければと思います。

(事務局)

「指導」よりは「話を聞いて一緒に考える」といったようなものが正しいと思いますので、表記について検討いたします。他にも精神科医の先生から言い回しが違うという指摘もありましたので、必要なところは修正していきます。

(委員)

計画の期間が5年間となっており、「社会情勢の大きな変化があった場合には必要に応じて見直しを行う」となっていますが、この社会情勢の大きな変化とはどのようなものを想定していますか。

(事務局)

例えば、7ページの自殺統計において、平成10年に急激に自殺者数が増加しています。リーマンショックがあつて失業者が増えたという背景がありました。あとになってみれば、社会情勢の変化というのが分かりますが、このような大きな変化があるということを想定して、社会情勢の変化という文言を入れました。

(副会長)

15ページの自殺を考えた事柄・原因は家庭に関する事、学校問題が多いですが、12ページの「自殺の原因」では、学校問題は少なく、家庭問題もまあ少ない状況で

す。ここでなんらかの対策がなされたのかなと思います。こういった考え方でよろしいのでしょうか。ここの考察がなされていれば教えていただきたいのですが。

(事務局)

12ページのところは自殺で亡くなった方の統計結果になります。学校問題が少ないのは、直近の5年間で伊勢原市では20歳未満で亡くなった方が0です。伊勢原市の人口構成も高齢者の方が多いため、統計結果は学校問題が少なくなっています。

15ページは市民意識調査なので、無作為に抽出された対象者の考え方を調査しています。そのため、若年層の回答数の理由から学校問題が大きな数字となってきています。

(議長)

ありがとうございます。時間も迫ってきていることから、残りの部分の説明をお願いします。

【事務局（障がい福祉課）より資料1－2伊勢原市自殺対策計画〔案〕の第4章から第6章について説明】

(議長)

重点施策として伊勢原市がどうすべきか、というところまで記載されていますので、教育行政、臨床、地域活動などさまざまな背景と絡めながら御意見をいただければと思います。

(委員)

自殺は実態の確認が非常に難しいと思います。最近ではセクシャルマイノリティの方々の問題も大きく取り上げられていますが、この意識調査の中には入っているのでしょうか。

(事務局)

アンケートの性別欄は男性・女性・その他の3種類を記載しましたが、返送のあった回答はすべて男性か女性のどちらかとなっていました。

(議長)

セクシャルマイノリティの点については見落としがちな部分もありますので、御意見として取り入れていただければと思います。

(委員)

2019年度から5か年計画となっているのですが、市役所の組織として対策室のようなものができるのでしょうか。

(事務局)

新たな対策室の設置は行いません。今ある担当課で自殺対策の啓発事業を盛り込んでいくという形になります。

(委員)

計画の策定時には庁内の連絡会議を開いていると思いますが、施策の展開について個々の担当課で行っています。施策の進行管理については庁内での会議はしていくのでしょうか。

(事務局)

計画に記載している担当課については、自殺対策に関係する課で構成された庁内連絡会議に所属している課になります。それ以外の課でも、会議という形とは異なりますが、周知や意識付けは必要だと考えています。

(委員)

そういった横の連携が必要になってくると思うので、是非お願いします。

(事務局)

計画書42ページに相談機関が記載されています。自殺対策は地域づくりの一環でもありますので、どうやって支援につないでいくか、どのようにしてつないでいくかということが大事になりますので、相談体制は充実させていかなければいけないと考えています。

(委員)

表紙の副題「～気づき つながり 支え合い～」がとても良いと思います。まさにこれを目指していると思うのですが、本文中に出てこないの、基本目標の副題等に記載していただければと思います。

児童虐待を見ていると多いのが無理心中なので、自殺で子どもも一緒に殺してしまうということがあります。そういったケースについても視野に入れていただければと思います。

子どものSOSの発信について、いじめの相談をSNSで相談受付をするのが有効であるということが分かってきております。こちらについても検討していただければと思います。

(委員)

不登校から自殺というケースもあるので考えていかなければなりませんね。

(議長)

伊勢原市では不登校からの自殺というのはどのような現状でしょうか。

(事務局)

教育指導課によると、不登校の理由がこれと言って決まったものがないと聞いております。文部科学省から SOS の発信についても通知が来ていますが、具体的な方法についてはこれから検討していくところです。

(議長)

第1期の計画はここでパブリックコメントを行うので、計画のさらなる肉付けはまた次の機会ということになりますね。

無理心中、セクシャルマイノリティ、不登校等、さまざまな御意見をいただきましたので、是非調整をしていただいて策定業務を進めていただければと思います。

以上で、報告事項(1)第1期伊勢原市自殺対策計画について審議を終わります。

それでは事務局にお返しいたします。

(事務局)

12月からパブリックコメントを行いますので、今回ご審議いただいた以外にも御意見がありましたら、パブリックコメントで御意見をお寄せいただければと思います。

それでは閉会のあいさつを新倉副会長にお願いします。

**【副会長閉会挨拶】**